

令和6年度 第1回徳島県地域職業能力開発促進協議会 議事概要

徳島県地域職業能力開発促進協議会

1 日 時 令和6年11月11日(月) 13:30～15:30

2 開催場所 徳島地方合同庁舎6階会議室

3 出席者及び所属

【構成員】

松村豊大(徳島文理大学)、脇田亮(徳島県経営者協会)、木具恵(徳島県中小企業団体中央会)、上田輝明(徳島県商工会議所連合会)、市原俊明(徳島県商工会連合会)、川口誠二(日本労働組合総連合会徳島県連合会)、領田孝彦(株式会社スタッフクリエイト)、中村一也(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構徳島支部)、宮崎仁成(徳島県職業能力開発協会)、福原美奈(全国産業人能力開発団体連合会推薦株式会社ニチイ学館徳島支店)、田中俊夫(徳島大学)、尾崎浩二(徳島県経済産業部)、竹中郁子(徳島労働局)

【オブザーバー】

木村敦(香川キャリア形成・リスキリング支援センター)

【事務局】

森広茂(徳島労働局職業安定部長)、佐藤雅彦(訓練課長)、岡島敬仁(課長補佐)、勝瀬泰彦(地方人材育成対策担当官)、木内新悟(訓練課係員)、林泰丈(徳島県産業人材課主査兼係長)、藤本大輝(徳島県産業人材課主任)

・議事に入る前に、議題(3)「ワーキンググループの効果検証結果及び訓練カリキュラムの改善促進策(案)について」の協議会資料及び議事録等の取り扱いについて、資料

及びその説明並びに議事進行中の発言内容から、ヒアリング対象者が特定され、特定の訓練コースへの批判に繋がる等、ヒアリング対象者に不利益が生じる恐れもあることから、徳島県地域職業能力開発促進協議会設置要綱の規定に基づき、議題(3)の協議会資料及び議事並びに議事概要について非公開とすることを事務局(徳島労働局)より説明し、協議会構成員の了承を得た。

4 議事概要

議題(1)徳島県における地域リスクリリング推進事業について

- ・事務局(徳島県)より、令和6年度徳島県推進事業一覧について説明。

議題(2)令和5年度徳島県地域職業訓練実施状況について

- ・事務局(徳島労働局)より、総計及び求職者支援訓練の実施状況について説明。
- ・事務局(徳島県)より、委託訓練及び県施設内訓練の実施状況について説明。
- ・中村構成員より、ポリテクセンター徳島の施設内訓練の実施状況について説明。

(松村会長)

IT分野やデザイン分野で訓練を修了した方はたくさんいるが、なかなか就職につながっていない客観的なデータがあるが、どのように見るか。

(木具構成員)

我々の会員で欲しいのは、動画や SNS を配信したりできる人、当然、デザインも入ってくるが、それは恐らくメインとなる業務に加えてのことだと思う。そのスキルを習得したから欲しいのではなく、そういうスキルも欲しいということだと思う。

(上田構成員)

職業訓練で実施している内容が果たして企業が求めているものとなっているのか検証することも必要と考える。

（事務局：徳島労働局）

デジタル分野の訓練修了者がIT業務全般を習得していると認識を持つ企業側とのミスマッチが課題となっているのは事実。職員が適切に受講あっせんできるよう、職員向けの施設見学会・説明会を実施している。また、企業側に訓練生のスキルを見てもらうのに企業向けの施設見学会・説明会も実施している。

（事務局：徳島県）

おっしゃるように、企業が求めているスキルに我々が実施している訓練のカリキュラムで十分提供できているのか常に検証、見直しが必要と考える。分野によっては企業が求めているものにズレがあるとも聞いているので、現場の実態に沿うよう、見直していきたい。

議題（４）キャリアコンサルティングの機会の確保その他の職業能力の開発及び向上の促進の取組について

- ・木村オブザーバーより、キャリア形成・リスクリング推進事業の取組状況について説明。

- ・事務局（徳島労働局）より、教育訓練給付制度による訓練機会の確保の取組状況について説明。

議題（５）令和７年度徳島県地域職業訓練実施計画の方針について

- ・事務局（徳島労働局及び徳島県）より、求職者支援訓練及び委託訓練に係る令和７

年度徳島県地域職業訓練実施計画の策定方針について説明。

議題(6)地域の人材ニーズの把握について

・議題(5)を踏まえての構成員からのニーズ報告

事務局(徳島労働局)からは、徳島県内の雇用失業情勢等について説明。

尾崎構成員(徳島県)からは、徳島県の産業政策に係る企業誘致の情報等について説明。

(松村会長)

議題5の計画の策定に向けた方針(案)にあるテーマ(人材ニーズを踏まえた設定)を整理すると、企業が抱えている本来的な業務に加えて IT能力を身につけた人材を企業では求めているということで構成員の皆様方、よろしいか。

(木具構成員)

今年から四国大学と徳島大学で授業の一環としてリスキリングを実施していただいている。学生の授業に企業も一緒に参加してもらって、共同で動画を作成している。企業は自社を PR したいので、そういったことができる人がほしい。実際10数名の方が参加しているので需要は高い。我々のところもSNSを配信しているので、学生もそういった仕事がしたいと来るが、SNSの配信がメイン業務ではなく、そういったこともできる人がほしいのであって、そのところにズレを感じる。

(田中構成員)

木具構成員のお話にあったように四国大学と徳島大学でSNSの制作を授業で行っている。学生からも好評と聞いている。企業とのコラボレーションとしての新しい形になっている。

（福原構成員）

医療分野においては人手不足という状況で、医師の働き方改革が行われていることもあり、弊社の行っている訓練講座にもデジタル化といった議論が必要とされていると切実に感じている。

（脇田構成員）

計画方針(案)の介護分野について、就職率は高いが応募倍率が低いのは、就職において、待遇面でそれほど賃金が高くはないということ。現状では、外国人人材がいないと成り立たなくなっているようであるが、先ず、どのような仕事なのかよく知ってもらうことが必要。また、デジタル分野について、就職率が低い、仕事に特化した専門性を必要とするからではないだろうかと企業から意見があった。

（市原構成員）

そもそもDXがわかっていない方が多いと思われるが、国が求めるDX人材と我々企業側が求めるDX人材の認識に相違があるように思う。また、能力開発を要する人材のターゲットをはっきりさせることやデジタル分野のカリキュラムについて検証するにあたって、訓練を修了した者が実際にどのような職種に就いているのか把握することも必要。

（川口構成員）

ワード、エクセル、パワーポイントを普通に使い、なお且つHP作成やSNSの配信なども含めてできる人が企業の中で考えるIT人材ではないだろうか。どのような人材を求めているのか、企業に対して聞き取りをすることも検証にあたっては重要と考える。

（領田構成員）

当社では9割方が女性の求職者であり、半分ぐらいが結婚後いったん退職して職場

復帰したいという方が多い。そして、ブランクがあるので、職場復帰にあたって研修等の就職支援を希望する方が多い。また、徳島県内の企業では、真面目に一生懸命に仕事をしてくれる方を重視されることが多く、コミュニケーション能力や事務に必要な電話応対等の基礎的な知識を持っている方のニーズがあるので、そういった研修も訓練にあればありがたい。

また、今般、社会保険加入の上限の見直しがあり、この10月以降は50人以上の企業が対象となった。今後、今まで扶養の範囲内で働いていた方が就業時間を増やして働かれる可能性も出てくるので、そのような方たちがフルタイムでの就業に対応できるような職業訓練もあれば良いのではないかと思います。

(松村会長まとめ)

デジタル田園都市国家構想は、人口が少ない社会でも一定程度、日本に居る人間が幸福追求をし、生活していけるような世の中を作っていこうという目標のものであり、その中でITの活用が言われている。また、ニーズ報告では介護現場での外国人人材についてのご発言もあった。次年度の計画を策定していただくにあたっては、こういった社会情勢にもご配慮いただいて、計画をお作りいただきたい。